

.....
工事畫報信條
.....

五週年を迎へて

工事畫報も五週年を迎へました。
昔は十年一昔ご申しましたが、今日の時勢では五年一昔で
す或は三年を以て一事業の一期劃を立てねばなりません。

○
五年間も同じ様な事をしてゐるご仕事にアキが来るもの
です、雑誌などは作る方も讀む方も情氣が生ずるものです。

○
それ故に出版界はご生滅の多いものはありません、此の點に於て技術雜
誌さか、學術雜誌さか云ふものも決して油斷は出來ないのであります。

○
況んや大同小異の内容を以て相類似した各種雜誌が續々發刊せらるゝ今
日に於ては、古い雑誌は古い程内容を良くしなければなりません。

○
我が工事畫報は創刊以來相當の難境を経た後ち漸く一昨年かゝる工事發達
に對する奉仕事業の實現に着手しました。而して其等の事業は悉く斯界に
多大の貢獻を致しました。

○
即ち一般から輕視されてゐた工事、社會から忘れられてゐた工事關係者
或は自らの職分を輕んじてゐた工事關係者すら、我が工事畫報の理想ご抱
負に何れ丈け目醒めたか知れません。人が目醒めるご同時に我國の工事も
此の數年來非常に合理的發達の端緒を示して來ました。

○
斯くて我國の最大財力を要する各種の工事が合理的に發達する事は國運
進展の一大事實であります。不眞面目極まる社會事相の多き中に我が工事
關係技術者のヂミな働が斯くも貢獻しつゝある事は各位ご俱に我々の益々
精勵自重を期する處であります。

昭和四年一月

工事畫報社同人

